



# しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

## 事業フィールド



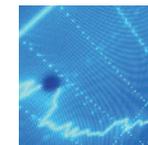
ハードディスク



精密熱処理



ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第**47**期  
ビジネスレポート  
2018年4月1日～2019年3月31日



代表取締役社長  
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第47期ビジネスレポート』をお届けいたします。

当期の連結業績は、前年実績に対して大幅な増収・増益となりました。売上高につきましては過去最高を大きく更新し、全てのセグメントにおいて黒字を計上することができました。

第48期につきましては、企業価値の向上を最大の目標として邁進してまいります。今年4月より、ワイエイシイグループの成長を加速するため、ビジネスユニット制を導入いたしました。業態の近いグループ会社を「メカトロニクス」、「ディスプレイ」、「産業機器」、「電子機器」の4つのビジネスユニット単位でまとめ、ビジネスユニット毎に損益責任を持ち、これまで以上に連携と競争を促進することによって、事業の成長の更なる加速を図ってまいります。

また、当期の期末配当金は1株につき10円とし、中間配当金の10円とあわせて年間20円とさせていただきます。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益還元

に努めてまいります。尚、第48期は4円増配とし、年間24円の配当を予定しております。

今後も既存事業における規模の拡大、高収益体質の確立を図り、また、M&A、アライアンスに積極的に取り組むとともに、量産新製品及び「第4次産業革命」に関連した新商品の開発や、生産性の向上を目的とした「働き方改革」にも積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めるとともに、より多く社会に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

# さあ今日も、ときめきと感動の日々であれ！

### 創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

### 成長理念

1. 社員の豊かさを追求する(経済的、精神的)
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

### 究極の理念

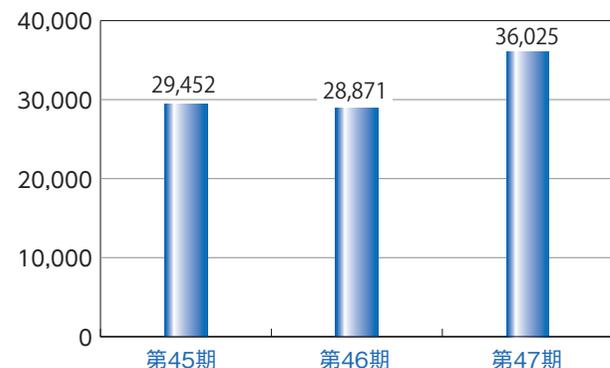
～より多く社会に貢献するために～

1. 社員の成長
2. グループの成長
3. 全員経営・連携と競争
4. 納税額の拡大

|                 | 第45期      | 第46期      | 第47期      |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 売上高             | 29,452百万円 | 28,871百万円 | 36,025百万円 |
| 営業利益            | 1,036百万円  | 1,074百万円  | 1,842百万円  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 790百万円    | 403百万円    | 1,094百万円  |
| 1株当たり純資産額       | 1,545.37円 | 1,578.33円 | 1,659.97円 |
| 自己資本比率          | 42.5%     | 37.0%     | 35.9%     |
| 配当金             | 20円       | 20円       | 20円       |

売上高

(単位:百万円)



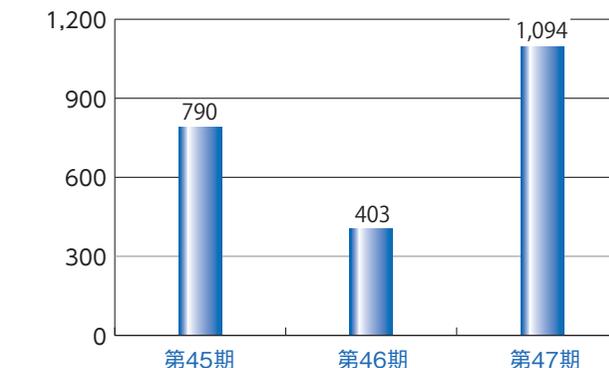
営業利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



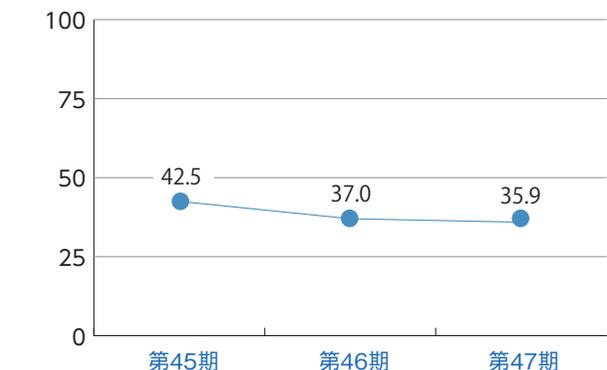
1株当たり純資産額

(単位:円)



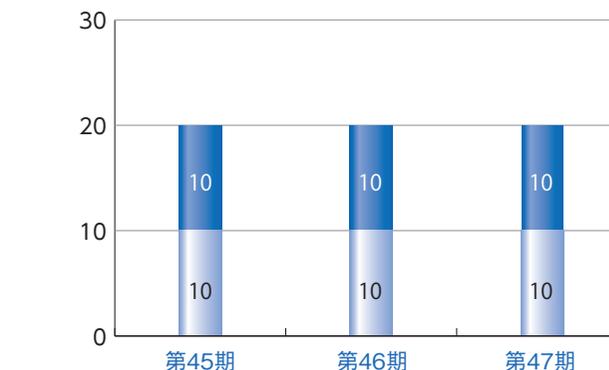
自己資本比率

(単位:%)



配当金

■ 中間 ■ 通期 (単位:円)



## 事業概況

当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日)における世界経済は、年度初めから総じて緩やかな回復基調で推移していましたが、年度末にかけては米中貿易摩擦問題をはじめとして、米国内における政治の混乱、中国経済の減速、英国のEU離脱交渉の行方等の懸念材料が顕在化し、世界経済減速への警戒感が広がり始めました。

日本経済においては、年度初めから東京五輪関連や訪日外国人の急増に伴う設備投資の活発化や、引き続き順調な雇用情勢を背景に、緩やかな回復基調で推移していましたが、中国経済の減速等の世界情勢を背景に、年度末にかけて弱い動きとなりました。

このような経済状況のもとで当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高360億25百万円(前連結会計年度比24.8%増)、営業利益18億42百万円(同71.5%増)、経常利益18億52百万円(同93.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益10億94百万円(同170.9%増)となりました。

が見込まれており、総じて緩やかな成長基調が続くものと思われます。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては更なる成長の加速を目指し、ビジネスユニット制を導入しました。ここ数年のM&Aにより拡大した当社グループ会社間の更なる連携強化により、事業の拡大を図ってまいります。

次期の業績は、連結ベースで売上高360億円、営業利益20億円、経常利益19億円、親会社株主に帰属する当期純利益12億円を予想しております。

## 経営の現状と次期見通し

今後の見通しにつきましては、中国経済の減速等による影響が懸念されるものの、第四次産業革命に関連した製品等の需要の拡大

## セグメント別の状況



### ディスプレイ関連事業

アニール装置及びドライエッチング装置の販売が好調に推移し、売上は大幅増となりました。利益面では、価格競争の激化に加え、一部装置においてコストが増大し、薄利にとどまりました。これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は158億83百万円(前連結会計年度比41.6%増)となり、セグメント利益2億62百万円(前連結会計年度はセグメント損失1億73百万円)となりました。

### メカトロニクス関連事業

HDD関連装置やイオンミリング装置等の販売が好調に推移し、業績は順調に推移しました。これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は181億22百万円(前連結会計年度比11.9%増)となり、セグメント利益は13億15百万円(同9.5%増)となりました。

### クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野においては、中国市場向け装置の販売が好調に推移し、業績は底堅く推移しました。これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は20億19百万円(前連結会計年度比37.2%増)となり、セグメント利益は1億20百万円(前連結会計年度はセグメント損失1億12百万円)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目             | 当期<br>2019年3月31日現在 | 前期<br>2018年3月31日現在 |
|----------------|--------------------|--------------------|
| <b>【資産の部】</b>  |                    |                    |
| <b>1 流動資産</b>  | <b>32,863</b>      | <b>29,878</b>      |
| 固定資産           | 8,781              | 8,386              |
| 有形固定資産         | 6,904              | 6,661              |
| 無形固定資産         | 568                | 706                |
| 投資その他の資産       | 1,309              | 1,019              |
| <b>資産合計</b>    | <b>41,645</b>      | <b>38,265</b>      |
| <b>【負債の部】</b>  |                    |                    |
| <b>2 流動負債</b>  | <b>17,547</b>      | <b>15,623</b>      |
| 固定負債           | 8,835              | 8,222              |
| <b>負債合計</b>    | <b>26,383</b>      | <b>23,846</b>      |
| <b>【純資産の部】</b> |                    |                    |
| 株主資本           | 15,230             | 14,270             |
| その他の包括利益累計額    | △269               | △127               |
| 新株予約権          | 51                 | 51                 |
| 非支配株主持分        | 249                | 224                |
| <b>3 純資産合計</b> | <b>15,261</b>      | <b>14,419</b>      |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>41,645</b>      | <b>38,265</b>      |

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目                     | 当期<br>自 2018年4月1日<br>至 2019年3月31日 | 前期<br>自 2017年4月1日<br>至 2018年3月31日 |
|------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <b>売上高</b>             | <b>36,025</b>                     | <b>28,871</b>                     |
| 売上原価                   | 29,270                            | 22,729                            |
| 販売費及び一般管理費             | 4,911                             | 5,067                             |
| <b>営業利益</b>            | <b>1,842</b>                      | <b>1,074</b>                      |
| 営業外収益                  | 188                               | 97                                |
| 営業外費用                  | 178                               | 217                               |
| <b>経常利益</b>            | <b>1,852</b>                      | <b>955</b>                        |
| 特別利益                   | 79                                | 22                                |
| 特別損失                   | 16                                | 112                               |
| 税金等調整前当期純利益            | 1,915                             | 864                               |
| 法人税等                   | 783                               | 431                               |
| 当期純利益                  | 1,132                             | 433                               |
| 非支配株主に帰属する当期純利益        | 37                                | 29                                |
| <b>親会社株主に帰属する当期純利益</b> | <b>1,094</b>                      | <b>403</b>                        |

**4 連結キャッシュ・フロー計算書**

(単位:百万円)

| 科目                   | 当期<br>自 2018年4月1日<br>至 2019年3月31日 | 前期<br>自 2017年4月1日<br>至 2018年3月31日 |
|----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー     | △1,505                            | 1,598                             |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー     | 99                                | △1,808                            |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー     | 1,328                             | 1,450                             |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額     | 49                                | 11                                |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)  | △27                               | 1,251                             |
| 現金及び現金同等物の期首残高       | 7,926                             | 6,703                             |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | -                                 | △28                               |
| 現金及び現金同等物の期末残高       | 7,898                             | 7,926                             |

**POINT 1 流動資産**

当連結会計年度における流動資産は328億63百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億84百万円増加しました。主な増加は受取手形及び売掛金26億71百万円、仕掛品11億32百万円、原材料及び貯蔵品2億73百万円であり、主な減少は有価証券6億46百万円であります。

**POINT 2 流動負債**

当連結会計年度における流動負債は175億47百万円となり、前連結会計年度末に比べ19億23百万円増加しました。主な増加は短期借入金10億12百万円、前受金8億93百万円であります。

**POINT 3 純資産**

当連結会計年度における純資産は152億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億42百万円増加しました。主な増加は利益剰余金9億14百万円であります。その結果、自己資本比率は35.9%となり、1株当たり純資産は1,659円97銭となりました。

**POINT 4 連結キャッシュ・フロー**

当連結会計年度における営業活動による資金は、15億5百万円の減少(前連結会計年度は15億98百万円の増加)となりました。

これは主に、

■プラス要因

- (1) 税金等調整前当期純利益19億15百万円
- (2) 前受金の増加8億93百万円
- (3) 減価償却費6億4百万円

■マイナス要因

- (1) 売上債権の増加26億18百万円
- (2) たな卸資産の増加14億77百万円
- (3) 法人税等の支払額10億3百万円
- (4) 未収消費税の増加3億69百万円

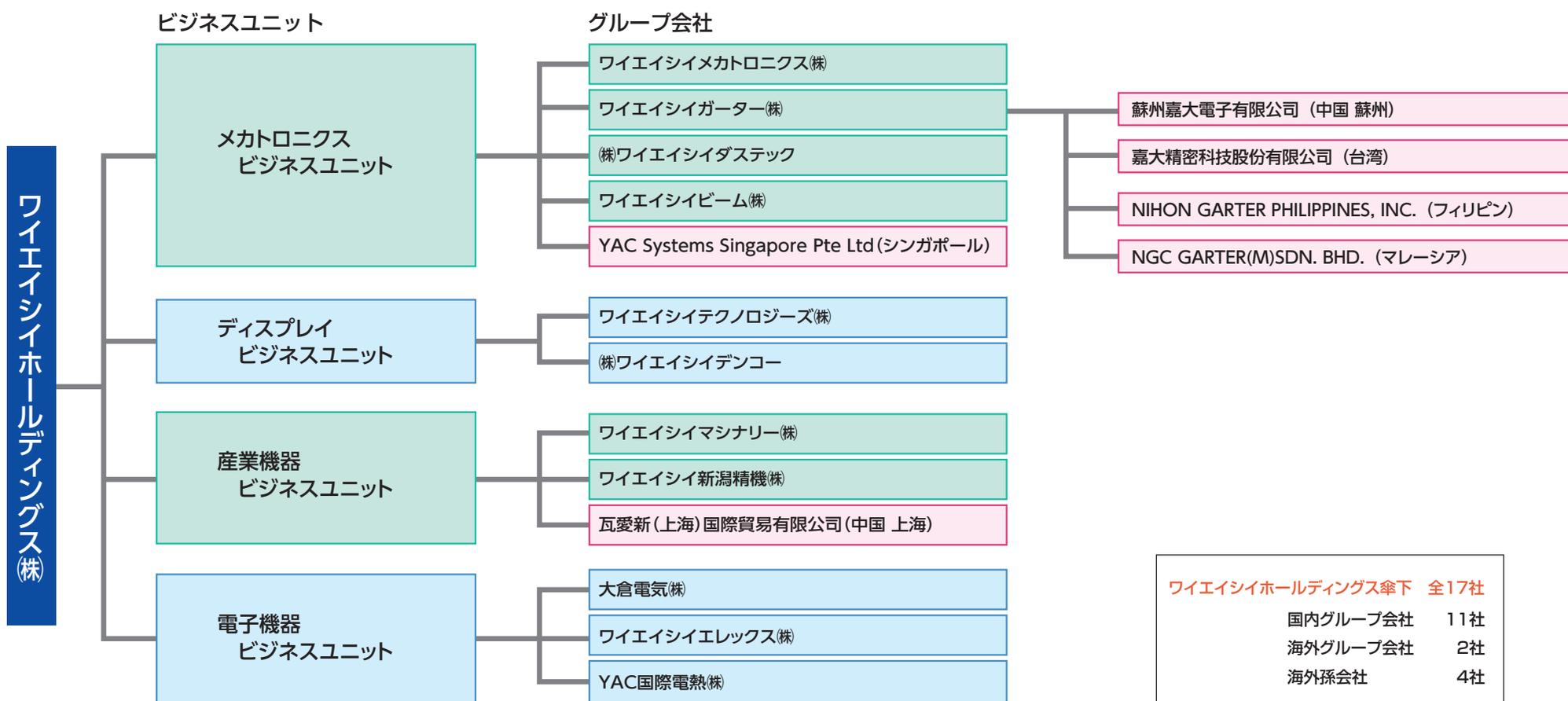
また、投資活動による資金で99百万円増加、財務活動による資金で13億28百万円増加した結果、当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度に比べ27百万円減少し、78億98百万円となりました。

## 企業価値の向上を目指し、ビジネスユニット制を導入

ワイエイシグループは企業価値の向上に向けて、2019年4月よりビジネスユニット制を導入いたしました。業態の近い会社を「メカトロニクス」、「ディスプレイ」、「産業機器」、「電子機器」の4つのビジネスユニット単位でまとめ、各ビジネスユニット長が配下のグループ会社を管理する新体制を採用いたしました。

これにより、これまで以上に迅速な意思決定が可能となり、ビジネスユニット内での経営資源がより有効に活用されることが期待できます。また、ワイエイシグループが従来から力を入れてまいりましたグループ会社間の「連携と競争」が、ビジネスユニット内外に作用することにより、これまで以上に有効に機能し、グループ全体の活性化及び更なる成長に繋がることが期待できます。

ワイエイシグループは、その目的使命と位置づけている「より多く社会に貢献する」を実現するため、企業価値の向上に努めてまいります。第4次産業革命により世の中が大きく変わろうとしておりますが、この大きな流れによるニーズを確実に捉え、企業価値の更なる向上を目指し、邁進してまいります。



会社概要

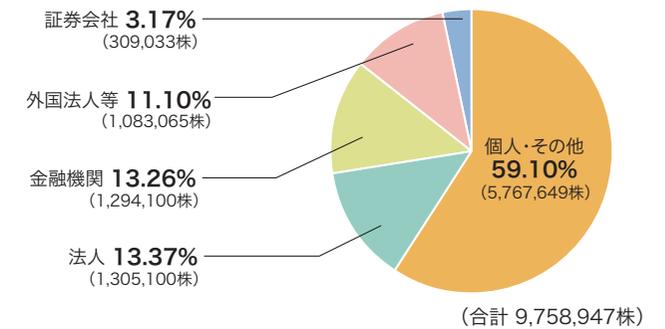
|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 商号   | ワイエイシーホールディングス株式会社                    |
| 英文表示 | Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.             |
| 本社   | 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号                    |
| 設立   | 1973年5月11日                            |
| 資本金  | 2,801百万円                              |
| 従業員数 | 20名 (連結853名)<br>(出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず) |

株式の状況

|              |        |             |
|--------------|--------|-------------|
| 会社が発行する株式の総数 |        | 34,388,000株 |
| 発行済株式の総数     |        | 9,758,947株  |
| 当期末現在の株主数    |        | 5,192名      |
| 個人・その他※      | 5,038名 | 5,767,649株  |
| 法人           | 37名    | 1,305,100株  |
| 金融機関         | 22名    | 1,294,100株  |
| 証券会社         | 38名    | 309,033株    |
| 外国法人等        | 57名    | 1,083,065株  |

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

(2019年6月27日現在)

|           |              |
|-----------|--------------|
| 代表取締役社長   | 百瀬 武文        |
| 取締役常務執行役員 | 副島 幸雄        |
| 取締役常務執行役員 | 寺本 和政        |
| 取締役執行役員   | 畠山 督         |
| 取締役       | 伊藤 利彦        |
| 取締役       | 福田 辰徳        |
| 取締役       | 大倉 章裕        |
| 取締役       | 石田 祥二 ※社外取締役 |
| 取締役       | 木船 常康 ※社外取締役 |
| 常勤監査役     | 辻 慎司         |
| 監査役       | 高田 直規 ※社外監査役 |
| 監査役       | 飯田 哲郎 ※社外監査役 |
| 執行役員      | 西坂 昌伯        |

大株主

| 株主名   | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 株式会社モモタケ  | 1,220   | 12.50   |
| 百瀬 武文   | 299     | 3.07    |
| BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/<br>JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM | 289     | 2.96    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)   | 275     | 2.82    |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO  | 211     | 2.17    |
| 野村信託銀行株式会社(投信口)   | 161     | 1.65    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)  | 153     | 1.56    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)   | 152     | 1.56    |
| J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000  | 117     | 1.20    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)  | 111     | 1.14    |

※当社は、自己株式を746,475株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



## 株主メモ

|              |               |               |  |
|--------------|---------------|---------------|--|
| 事業年度         | 4月1日～翌年3月31日  | 同 連 絡 先       | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1-1<br>TEL 0120-232-711 (通話料無料)  |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日         |               | 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日         |               |  |
| 定時株主総会       | 毎年6月          |               |  |
| 株主名簿管理人      | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 上 場 証 券 取 引 所 | 東京証券取引所  |
| 特別口座の口座管理機関  | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 公 告 の 方 法     | 電子公告により行います<br>公告掲載URL <a href="http://www.yac.co.jp/">http://www.yac.co.jp/</a><br>(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての  
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを  
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、

で検索ください。

## ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10  
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107  
URL <http://www.yac.co.jp>